

さいたま市長 4 月定例記者会見

平成 20 年 4 月 18 日（金曜日）

午後 1 時 30 分開会

○ 進 行 定刻になりましたので、ただいまから定例記者会見を始めさせていただきます。

それでは、記者クラブ幹事社さん、よろしくお願いいたします。

○ 産経新聞 4 月の幹事社を務めます産経新聞と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、本日の記者会見内容につきまして市長から説明をお願いします。

○ 市 長 それでは、皆様、こんにちは。定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の発表議題は 2 件。

初めに、議題 1 「地域中核施設プラザノース」のオープンについてご説明をいたします。

さいたま市の北区に整備を進めておりました、『プラザノース』が、いよいよ 5 月 1 日にグランドオープンとなります。

プラザノースは、北図書館、北区役所のほか、「コミュニティ」、「ホール」、「芸術創造・ユーモア」の各機能を有し、本市北部地域における中核施設として、市民の交流の場、憩いの場となる施設であります。

また、プラザノースは、民間資金並びに民間の持つノウハウや創意工夫を最大限に生かす、本市初めての P F I 事業として実施をしております。

本事業は、設計、建設から維持管理運営に至るまで、すぐれた民間のノウハウが導入されており、さらにコスト的にも従来手法と比べて約 22 億円の縮減が図られているものであります。

施設の概要、施設の内容につきましては、お手元に配付をしてごさいます、記者発表資料のとおりでございます。

今後、施設の管理運営につきましては、平成 35 年 3 月 31 日までの 15 年にわたって、P F I 事業者であるプラザノースマネジメント株式会社が行ってまいります。

多くの市民の皆様にも、よりよい公共サービスの提供を行うとともに、複

合施設の特徴を生かした積極的な事業展開に努めてまいりたいと考えております。

中でも本施設の特徴である、芸術創造、ユーモアであります、「漫画」という地域文化を活用したユーモア機能では従来の事業をさらに発展、充実させ、ユーモア文化の拠点の形成を目指してまいります。

なお、関係者の方々にご出席をいただきまして、落成式を5月の1日、木曜日、午前8時半からとり行いますので、取材方よろしく願いいたします。

図書館はカウンター開きを行い、午前9時から開館をいたします。また、5月1日から6日まで、オープニングイベントの事業もごございます。詳しい事業内容につきましては、お手元に配付をしております、プラザノース情報紙「ノース*ノステル」をごらんをいただきたいと存じております。

次に、議題2「埼玉サッカー100周年記念―「さいたまシティカップ2008」の開催について説明をいたします。

昨シーズンは、浦和レッズのアジア制覇、クラブワールドカップ第3位という快挙によりまして、「さいたま市」が世界に向けて大いに発信をされました。

レッズの活躍には多くの市民が勇気づけられている姿を見て、改めてサッカーがこのまちの文化として根づいていることを実感いたしました。

さて、第6回目となります「さいたまシティカップ2008」は、今年が、この地にサッカーが発祥して100周年を迎える年であることを記念をした大会として、アジアチャンピオン「浦和レッドダイヤモンド」と、シティカップへ2度目の参戦となるドイツ・ブンデスリーガの雄「FCバイエルン・ミュンヘン」との対戦が決定をいたしました。

開催日時は、7月の31日、木曜日、午後7時半キックオフ。会場は、埼玉スタジアム2002でございませう。

現在ブンデスリーガで首位をいくバイエルンが、このまま優勝を果たしますと、4年連続で欧州の主要リーグチャンピオンをシティカップに招くこととなり、主催者といたしましても大変光栄なことだと思っております。

さいたま市をホームタウンとするアジア王者・浦和レッズが、日本サッカーの歴史に大きな影響を与えてまいりました、ドイツを代表する名門F

Cバイエルン・ミュンヘンを、再び埼玉に迎えるシティカップ。埼玉サッカー100周年にふさわしい、両国のサッカー文化を感じさせる熱戦を期待をするとともに、多くの市民の方々にご観戦をいただき、夢や感動を味わっていただけることを願っております。

議題については、以上です。

なお、これからゴールデンウィークにかけて「さくら草まつり‘08」、「人形のまち 岩槻流しびな」、「第25回 大盆栽まつり」、「春の園芸まつり」及び「アグリフェスタ‘08」など多数のイベントが市内各地で開催されます。

いずれも、さいたま市を代表する春のイベントでありますので、取材方をよろしくお願いを申し上げます。

とりあえず以上です。

○ 産経新聞

ありがとうございました。

市長からの説明について質問がありましたら、皆さん、お願いいたします。

じゃ、すみません、まず私から1点よろしいですか。

○ 市 長

はい、どうぞ。

○ 産経新聞

今回も例によってアルディージャのほうにお声かけというのはされたわけですか。

○ 市 長

されておりますですね。

○ 産経新聞

今回はどのような。

○ 市 長

アルディージャのほうは、これ毎回ご質問が同じパターンで出るんですけども、ことしのシティカップはですね、「埼玉サッカー100周年」ということもありまして、当初レッズとアルディージャに海外の強豪クラブを迎えた3チームでの巴方式、この巴戦の方式の開催を考えておりましたんですが、オリンピックや欧州選手権といった世界のサッカーカレンダーとJリーグの日程などの制約から、残念ながら実現には至らなかったというのが現実であります。

このタイトなスケジュールの中、レッズとバイエルンがパートナーシップの関係に基づく親善試合、これは一昨年ですか、レッズとバイエルン・ミュンヘンが取り交わしたパートナーシップですけれども、この関係に基

づく親善試合を行うということをお聞きをいたしまして、この試合をシティカップという位置づけにさせていただきました。

しかしながら、アルディージャにも100周年の記念の年にぜひともシティカップに参加をしてほしいと考えておりまして、今大会への参加はちょっと難しいんですけども、今大会とは別に、アルディージャ単独ですね、何か開催できないか、今後も可能性を探ってまいりたいというふうに思っております。

○ 埼玉新聞 すみません、埼玉新聞です。スケジュールが合わなかったということでよろしいでしょうかね、理由としては。

○ 市長 そうです。1にスケジュールリングですね。やはり2番目として、まず昨年の成績等から見てですね、14位の残留をまず第一義的に考えておられたという2点じゃないでしょうか。

おかげさまで、きょうこのカップをしみじみ見たんですが、過去の5戦のですね、相手チームとスコアも全部刻んでありまして、だんだん歴史が出てきたなど、そんな感じがします。最初の2003年はフェイエノールトとやったんですね。そのとき、小野伸二がまだフェイエノールトにいて、凱旋試合みたいな格好でやったんですけども、5万2千人からお客様が入ってですね、第1回目としては大成功だったわけです。それから早くも5年の月日が流れました。インテル・ミラノ、FCバルセロナ、バイエルン・ミュンヘン、マンUというふうなすごい相手がずらっと並んでおりますので、まさに先ほど申し上げましたけども、欧州リーグのチャンピオンチームとずっとできているということはですね、このさいたまシティカップの価値を非常に高めているんじゃないかなというふうに思っております。

ことしは、バイエルン・ミュンヘンで決まっていますけど、また来年以降ですね、いいチームが招聘できるというふうなというふうに思っています。

○ 埼玉新聞 確認なんですけど、アルディージャが断ったんじゃないんですよね。

○ 市長 断られました。

○ 埼玉新聞 断られたんですか。

○ 市長 はい。余り申し上げたくなかったんで、言わなかったんですけど。

○ 埼玉新聞 単独での開催というのは秋とかにも……

○ 市長 そうですね。なかなか国際試合というのは難しいと思いますので、

100周年を記念して何かの親善試合でもできるといいなど。おかげさまで、NACK5スタジアム大宮もですね、今使われていますけれども、大分好評なんですね。なかなか格好がいいスタジアムだぞということで好評もいただいていますから、そういった地の利生かして何かできたらいいなというふうに思っています。

○ 埼玉新聞 断った理由は、先ほどおっしゃっていた、そのアルディージャのスケジュールの話と、ことしも残留を……

○ 市長 ですね。

○ 埼玉新聞 ということの、それが一番先にある……

○ 市長 第一義的にやはり、1はスケジュールですけど、2番目としては、やはり何といてもですね、去年ぎりぎりだったですから、あの轍は繰り返したくないというのが社長を初めですね、皆さんの考えのようでございます。

○ 産経新聞 すみません、プラザノースのほうなんですけれども、漫画のユーモアということだったんですけれども、これ特にどんな、特にということでしたが、具体的にはどんな内容なんでしょうか。

○ 市長 まず、その芸術創造・ユーモア機能ということを申し上げました。この、まず芸術創造機能につきましては、大学や、また専門学校などとの美術関連のネットワークの構築を図るとともに、展覧会やワークショップ、各種講座等を実施をいたしまして、新たな美術文化の育成に努め、市民の芸術創造活動に対する支援を行うというものです。

ユーモア機能につきましては、本市のオリジナリティーの1つであります北沢楽天ゆかりのですね、「漫画・ユーモア文化」を広く内外に発信するための機能でございます。

事業につきましては、市民に親しまれ、国際的にも実績を重ねている「国際漫画フェスティバル」や「ユーモアフォトコンテスト」など、さらに充実発展をしてまいりたいと考えております。

あわせてホールや映写室、ギャラリー等を活用いたしまして、新たな事業としては「ユーモア音楽祭」や「面白ショートフィルム上映会」などのユーモアに関する多彩な事業を展開をいたしたいというふうに思っております。

せんだっても記者会見やらせてもらいましたけど、やなせたかし先生を

ですね、漫画会館ゆかりというふうなことで、いろんなご支援をさいたま市に対していただいております、いろんな形で、この漫画、ユーモアというのはさいたま市を特徴づける1つの文化に育つといいなという思いでございます。

- 産経新聞 やなせたかしさんも全面的に協力してくれると。
- 市長 そうですね。これからのスケジューリング的にはですね、浦和駅前のうなちゃん像、これの除幕式か、いつでしたっけ。
- 事務局 24日です。
- 市長 5月の24日に予定されておりました、それにもお見えいただけると。その日がうなぎまつりですから、またステージで歌をご披露いただけるんだろうと思っているんですけども、メロディーは多分同じじゃないと思いますので、その節はですね、パート2だなと思って聞いていただければ、思っております。
- 埼玉新聞 もう一点いいですか。ノースとイーストとウエストがあると思うんですけど、当然もう一つね、南にも、って思うんですが。
- 市長 そうですね。
- 埼玉新聞 将来的には……
- 市長 当然ですね、今、武蔵浦和の第1街区ですね、駅の第1街区、これがそろそろ始まるということの中で、南区役所、それから南図書館、そういったようなですね、一連の今までのプラザと名づけたような、ウエストとかイーストとか名づけたような同じような機能をですね、そこに充実をさせていきたいなというふうに思っております。
- 埼玉新聞 すみません。サウスをつくるというわけではないんですかね。
- 市長 そういう総合的なですね、総称的にどう呼ぶかというのはまた別問題だろうと。今パルコの上の図書館だとか、市民活動サポートセンター、コムナーレというふうに申し上げておまして、それもある程度ご理解いただいているんですけども、やっぱり俗称的にはパルコの上の図書館でと、こういう話になっちゃうんで、これがなかなか情けない部分があるんですけども、総称的にはね、プラザサウスと名づけるかどうか、まだこれはこれからの話です。ただ、機能的にはね、ほかのプラザと劣らないような機能ということになるかどうかと思っています。

もう皆さん、ごらんいただいたかな。プラザノースは、まだごらんになっていませんか。まだ内覧していませんか。あそこは非常に何かおもしろいつくりでしてね、素通しのガラスをうまく十分使っているもんだから、どこからでもですね、その真ん中のホールが見えたり、図書館の中、上からひょいとのぞけたり、今までにないですね、ちょっとおもしろい構造になっています。こういったこともやはりPFIならではだろうなというふうに思っております、ぜひですね、また5月の1日、取材に来ていただいて実感していただければなというふうに思います。

○ 埼玉新聞 あと、すみません、1点追加でお願いしたいんですが、ユーモア機能についてなんですが、1つはその企画力が命みたいところは出てくると思いますが、企画自体は、これは市のほうが企画立案されるんでしょうかね。

○ 市 長 自主事業ですね、1つは。これ、まず初年度、平成20年度の予定ですが、市の主催事業としては42事業、ユーモア事業で8事業、市の企画事業が34事業、うちユーモア事業8事業と芸術創造事業7事業含むということでありまして、市の企画は34と、ユーモア事業ですから、一般公募したりアイデア募集したりするのが8というふうに今のところ考えています。

自主事業、この独立採算事業ですね、皆さんがやってもらう事業、これを63本予定をしております、これは事業者が民間収益事業として実施をする独立採算事業。ですから、プラザノースのユーモア機能のステージをかすと、あとそれぞれですね、事業者が独特のアイデアを絞っていただいて、おもしろいものをしていただければというふうに思っています。

○ 埼玉新聞 これは、何か審査基準みたいなのはあるんですね。

○ 市 長 これは、とりあえず委託みたいな形で、それぞれが責任を持ってやるということになるかと思っています。審査だとかするのかな、しないね。

○ 事務局 特にないですね。

○ 市 長 これ審査しないね。

○ 埼玉新聞 場所の提供ということになるわけですか。

○ 市 長 そうです、そうです。そういうようなお考えで結構です。

○ 朝日新聞 すみません。このプラザノースは、何でPFI事業なんですか。

○ 市 長 何でって言われも困るんだけど、じゃPFI事業とは何かから説明しな

いとおわかりにならないようなんで。P F I 事業というのは、公共事業を実施するためのですね、手法の1つなんですね。民間の資金、それから経営能力、ノウハウ、こういったものを活用いたしまして、公共施設等の設計・建設や維持管理・運営を行う公共事業の手法であります。あくまでも地方公共団体が発注者となって、公共事業として行う。P F I というのは、プライベート・ファイナンス・イニシアチブの略でございます。

なぜそれを使ったかという、やっぱりメリットがあるから。入札時は6グループが参入しましてですね、総合評価方式の一般競争入札でコストと提案内容において最もすぐれたもの、これが採用されたわけでして、プラザノースは事業期間全体、これは供用開始後15年を想定していますけれども、15年の市を財政負担の総額が従来手法に比べて17.6%、約22億円減少したと、こういう試算がされています。民間のサービスを安いコストで効率的に高い水準のまま提供されるということを期待をしております、このように本事業はP F I 事業のメリットを最大限に生かそうとしている事業であります。

このP F I というのは、そのP F I 会社、これをね、つくってもらうんですね、民間のほうに。今回の会社は、プラザノースマネジメント株式会社、これ参加者の鹿島グループにより設立をされた特別目的会社です。これプラザノースマネジメント株式会社、構成企業が12社ということになっておまして、先ほど申し上げました15年の事業期間、これが終わると解散をすると、この会社はですね。その残った資産、これを市が引き取るというのがパターンのやり方です。

今なぜP F I に入れたのかということについて申し上げましたようにですね、かなりコストパフォーマンスがいいということが1つの大きなポイントでありますし、やはり事業スピードもですね、民間とその公営企業とはやっぱりちょっと違まして、早いと。やはり時間もコストだというふうに考えれば、これは22億円という数字以上のコストパフォーマンスがあったのかなと、こんなふうに私どもは理解をしております。

○ 朝日新聞 じゃ、今までのあった2つよりもコストが何か大幅に削減されたということでもいいですか。

○ 市 長 そうですね、はい。

- 朝日新聞 22億円というのは、市が独自でやっていたらというよりも……
- 市長 そうですね、今までの一般競争入札的なやり方と比べると、それくらいは安くなったろうと、こういうことです。
- それと、あと15年の管理運営費ですね。さっき申し上げたように、15年間というこの特殊会社は消滅、特別目的会社で消滅をしますから、その間の管理運営費、これを含めて約22億円のコストパフォーマンスだろうと。
- 朝日新聞 プラザノース自体は、緑区のほうと、何かもう一つウエストのほうより規模は大きいと、規模というか……
- 市長 何と。
- 朝日新聞 ほかの2つの規模、同じぐらいですか。
- 市長 規模的には、そうですね、プラザウエストは体育館がありますから……
- 朝日新聞 体育館。
- 市長 ええ。記念体育館というのがありますから、それを含めるか含めないかという話になりますけれども、単体のプラザとしてはノースが一番大きいのかなと。ウエストも大きいかな。同じぐらいでしょう、大体ね、プラザウエストも。プラザウエストが全部で何だ、難しいな、これな。建築面積がプラザウエストは7,930㎡、プラザノースが9,775㎡でありますからですね、そういった意味ではかなり大きいと。ただ、プラザウエスト、先ほど申し上げましたように、体育館が同じ敷地内に記念体育館というのがありますので……
- 朝日新聞 プラザノース……
- 市長 これをプラザウエストに含めてカウントしていませんから、別のカウントになるので、それ入れればウエストのほうがいいかなと、面積的にはね。
- 朝日新聞 プラザウエストに体育館があるんですか。
- 市長 プラザウエストの敷地の中に別棟で体育館があるの。1回見てきてください。
- 産経新聞 議題についてはよろしいでしょうか。
- 市長 いいですか、議題は。
- 産経新聞 では、幹事社として代表質問をさせていただきます。質問はまとめて行いますので、よろしく願います。

暫定税率の失効で、さいたま市の減収は約60億円ぐらいに上るということですが、どのような影響があるのでしょうか。

また、今後、予算執行を凍結する必要があるか、また、その場合に「これだけは残す」というような優先順位を考えていらっしゃれば、教えてください。

2つ目の質問です。区役所の土日開庁の試行で、反響はいかがだったでしょうか。意見をもとに今後、取り扱い業務をふやしたり、固定的に続けたりするお考えはありますか。

以上、2点についてお願いいたします。

○ 市 長

それでは、まず代表質問にお答えをいたしたいと存じます。

まず、暫定税率が失効した場合の今年度の影響額についてですが、地方道路譲与税などで約60億円程度、それから地方道路整備臨時交付金などで約63億程度、合計で123億円程度の減収見込みとなります。また、国庫補助制度を活用している事業費への影響も含めると、約190億円程度の影響が見込まれる。

このような中で、さいたま市といたしましては、地方六団体や指定都市市長会を通じまして、市民生活への影響を最小限にとどめるよう、国に対して要望を行っているところでございます。

また、お尋ねの予算執行の凍結についてですが、今年度に予算化をしております事業は、いずれも直接市民生活にかかわるものや、本市の体系的な道路整備として必要な事業でございますので、今回の財源見合いで、即「凍結」との結論には至りませんが、道路の維持補修、歩道整備、生活道路等については、市民の日常生活や安心・安全に密接にかかわるものでございまして、極力支障が出ないように事業を進めてまいりたいと考えております。

しかしながら、道路特定財源にかかわる国庫補助制度を活用して実施する道路等の整備については、その内示状況を踏まえながらこれから慎重に対応していこうというふうに考えているところでございます。

それから、2番目の区役所の土日開庁の試行について申し上げます。まず、土日開庁試行につきましては、転入転出の多いこの繁忙期の混雑緩和を図るとともに、土日における申請・届け出等の状況を把握するため、3月

の29日と30日、それから4月の5日、6日、計4日間、午前8時半から午後5時まで、全10区役所の窓口を開庁したところであります。

来庁者数は、4日間の合計で、5,902名となりました。

市民の反響ですが、当日実施をした、来庁者のアンケートによりますと、『年度末で多忙な時期に助かりました。』『土日に窓口を利用できると仕事を休まないで済むので大変助かります。』、など、好意的な意見が相当数ございまして、市民満足度の向上に資する試みとして、一定の成果を上げられたものと考えております。

今後につきましては、取り扱い業務をふやすことや、固定的に続けることなどについては、今回の試行における課題を精査をし、市民ニーズを踏まえながら検討してまいりたいと考えております。

とりあえず以上です。

- 産経新聞 では、幹事社質問に対する質問をお願いいたします。
- 埼玉新聞 すみません、土日開庁についてなんですが、最後のほうで課題について精査し、今後検討していきたいというお話ですが、要するに前向きにとらえてよろしいのでしょうか。
- 市 長 そうですね。各区役所によってですね、かなり利用者の数に差があったんですね。一番多かったのは、実は南区役所なんです。これは、場所がご承知のように武蔵浦和駅から歩いて2分ぐらいということなので、例えば桜区の区民の方もですね、かえって南区役所のほうが行くのに近いと、そんなようなことから駅に近いところほど利用された、こんな結果が出ておりますのでね、その辺をよく分析をして、効率的には一体ね、全区をあけるのがいいのか、それともその中で半分とか7とかある程度の限定をしてあけるのがいいのか、そういったことも含めてこういったデータがちょうど出ましたので、これをもとにですね、これから精査をしていきたいという、そういう意味です。
- 埼玉新聞 結論的にはいつぐらい。
- 市 長 そうですね。やはりやるとすれば、またもう一回ぐらいということにもなるんだろうと思うんですけど、なるべく早い時期にですね、方向性は出していきたいなというふうに思っております。
- 産経新聞 ではですね、そのほかに質問がある方はお願いいたします。

- 読売新聞 すみません、新都心の8-1A街区の話なのですが、基本協定がそろそろという観測もあるようですが、途中経過をわかる範囲で教えてください。
- 市長 そうですね。知事のね、記者会見等でも、知事さんのほうでは4月中に何とかという話もされておりました。MNDさいたま、また県、市、都市再生機構の主催者3者は一致してですね、早期の事業着手、そういう円滑な事業推進に向けた強い意思を持っていることは事実です。その中で、市といたしましては基本協定の早期締結を目指して鋭意取り組んでいるところなのですが、いろいろ経過でご承知のとおりですね、県議会のほうとの関係、その他でそうスムーズにいかないのかなというおそれもあるんですけども、ずらすと幾らでもずれてしまいますので、なるべく早い時期にですね、協定を結んでいきたいなというふうに思っております。
- いずれにしても、この私どものやっておりますサッカーミュージアム、こういったことについては準備室等も設けてございますし、昨年度から継続して施設の基本的な内容やそういった整備方針、こういったような策定をしていくということで検討委員会において進めておりますので、いついかなるときにでも対応できるようにという準備だけはおさおさ怠りなくしてまいりたいというふうに思っています。
- 読売新聞 連休前は、基本協定は厳しいよう、わかりますか。
- 市長 ちょっとね、その辺がですね、今県とMNDさいたまとの直接交渉みたいな部分になっていて、そこに県議会のご意向が入ってきているようですので、私どもも当事者ではあるんですけども、直接携わっていると、基本協定を結ぶ時期等に関して直接に携わっている立場じゃないもんですから、はっきりしたことを申し上げられないんですけども、市としてはやっぱりできるだけ早い締結が望ましいと、こういう姿勢です。
- 産経新聞 すみません、後期高齢者医療のことなんですけれども、さいたま市は年金からの引き落としというのは今回はやっていないわけなんですけれども、15日以降どういような問い合わせが窓口に寄せられているとか、そういう状況がありましたら教えてください。
- 市長 20年4月から特別のですね、徴収を延期した理由ですけども、やはり19年、今の保険料の賦課データの分割の根拠ですね、これが19年8月末日の時点の老人保健医療受給者データでありまして、その後の保険異動

を反映していないために、賦課誤りが発生をするだろうということが予測されますので、より正確な賦課を行うためには現保険料徴収システムの追加改修をするというふうに、保険料凍結にかかわる十分な対応を行うことが必要であろうと思ひまして、特別徴収は10月から延期をいたしました。しかしながら、その10月の特別徴収開始までには、7月からの普通徴収による対応を進めてまいるということでもあります。

主な問い合わせ内容についてですが、問い合わせ件数が約1万2,000件、各区1日平均100件の問い合わせをいただいております。これは、4月1日から15日という時点ですが、中身は保険料がどれくらいになるのか、幾らですかというのが30%、制度がよくわかんない、理解できないというのが25%、それから年金からの天引きはいつからかというのが20%、それから被保険者証が届いていないというのが10%、それから被保険者証の文字が小さいというのが10%。私も被保険者証を見たんですけど、確かにあれはちっちゃいですね。

○ 埼玉新聞 後期高齢者ですからね。

○ 市長 後期高齢者だから、我々ですらね、ちょっとね、考えちゃうぐらい見ている文字が細かいんで、ああいうことはやっぱりもうちょっとね、親身になってつくってくれるといいなというふうに私ども思っております。

なお、この制度周知につきましては区役所や公民館で49回住民説明会や、それから全対象者へパンフレットの送付、それから広報特集への掲載を行うなどあらゆる角度から周知をしてみましたが、まだまだ制度がわかりにくいという声が多くありますので、今後もですね、積極的な制度周知を考えてまいりたいというふうに思っております。

○ 産経新聞 すみません、広域連合のほうから、さいたま市さんは対象者が多いので、届いていない件数も一番多いというようにお聞きしたんですけども、今そのあたりというのは解決に向かっているんでしょうか。

○ 市長 一番多いということは認識しておりません。

○ 産経新聞 あ、そうですか。

○ 市長 はい。

○ 産経新聞 三百十数件という話をちょっと。

○ 市長 120万分のだからね。

- 産経新聞 そうですよ。
- 市 長 120万分の313と10万分の200とは大分違うんだよ。
- 産経新聞 そうですね。
- 市 長 実数だけでね、そんな言われても非常に戸惑うばかりでありまして、パーセンテージ的に言うと、パーセントで言えば非常に低いと。ただ、実数で言えば多いと、こういうことは非常に多いんですね、やはりね。
- 産経新聞 対象者が多いのでというふうにそちらもおっしゃられていました。
- 市 長 だと思います、はい、はい。だから、数字的には、実数的には多いのかと思いますけれども、できる限りのことはやっておりますので、パーセンテージ的にはですね、他の市に劣っているということはないだろうという認識であります。
- 読売新聞 すみません、話は異なりますが、来月京浜東北線の高架化の工事が浦和駅で行われますが、改めてその高架化の意味みたいなものをお伺いしてよろしいですか。
- 市 長 そうですね。やはり今東口がですね、おかげさまでパルコ、コムナーレが完成をしてかなりきれいになってまいりました。パルコ、コムナーレから見た駅の駅舎の関係ですけどね、今一番東側のほうに薄い緑色ですか、ガラスが入って非常にしょうやかな感じのね、駅になってきたと。これが上がってくると、大分また景色変わってきまして、ちょっとまだ日にちはありますけれども、今度は湘南新宿ラインが停車するようになるそうですね、まだそれにはちょっと時間がかかりますけれども、まさに横浜あたりが隣のまちになってくるわけですね。全部で40分ちょっとぐらいで行けるようになりますから、そうなりますといろんな商業環境も随分変わってくるでしょうし、そういったものの第一歩だというふうに受けとめておりますが、早くですね、そういったような交通の便がよくなるといいなと。また、高崎線、宇都宮(東北)線等の東京乗り入れも言われていますんでね、こういうのができてくると、かなりこのさいたま市の交通の便というのは上がっていくだろうなと、まだまだ発展性があるのかなと、そんなふうに思っております。
- 埼玉新聞 すみません、子育て支援に関連したお話になるかと思いますが、先日東京都のほうで塾にかかる費用、低所得者層を対象にしたということですね。

ども、無担保の貸付制度を開始するというお話がありましたが、さいたま市としてそういった制度を導入するようなお考え、今現在どうでしょうか。

- 市長 今ありません。
- 埼玉新聞 ございませんか。
- 市長 はい。
- 埼玉新聞 一方で、中学生の高校受験への進路を考えると、現在塾がなければほぼデータが学校だけでは集まらないという現状がありますけども、その点も含めまして、やはり塾がないと高校へ進学できないような状況が現状になっているかと思えます。その辺も含めまして、ちょっと市長のお考えをお聞かせ願いたいんですけども。
- 市長 昔北辰テストというのがこの辺ありましてね、それが県の教育局のほうでそういう業者テストは全廃だというのが竹内克好教育長のときでしたかね、あってきて、それでなくなったんですけど、現実的にはね、やはり比較するものがないというんで、堂々とはやってありませんでしたけども、脈々とやっておったような、そんなことも聞いております。
いずれにしても、進学ということですが、高等学校から上というのは義務教育じゃないので、ある意味では自治体がですね、どこまで関与しているのかということもそれは当然出てきます、進学に関してですね。ですから、ある意味では適性検査、こういったものをクリアしていただくということが第一条件になっていくんでしょうけれども、前年行われた学力テストですね、さいたま市の子供たちはかなり学力が上だということも出ておりますので、それぞれがしっかりやってほしいなど。業者のテストというのは、なかなかいい、悪いが難しいんですけど、だれかきょう教育局から来ています。はい、じゃお願いします。
- 事務局 指導1課長でございます。
中学校から高等学校への進学に関しての資料につきましては、昨年度から中学校の校長会のほうで学力テスト、自分たちで問題を作成しまして、その結果を進路指導の参考にするという動きができておりまして、今年度も校長会のほうでその辺は実施していく予定でございます。
以上です。
- 埼玉新聞 繰り返しになりますが、支援ということでは今現在はお考えになってい

ないということ。

○ 市長 はい。かなりの富裕団体じゃないと難しいじゃないですかね、現実的にはね。

○ 読売新聞 すみません、さいたま市が誘致をした企業の代表例でありますカルソニックカンセイの移転が迫っておりますが、これについても改めてここに至った感慨とございますか、ご感想をお願いできますか。

○ 市長 そうですね。カルソニックカンセイについてはですね、3年前ですかね、上田埼玉県知事とともどもカルソニックカンセイの本社に伺って、北島孝社長と直接お会いをしてですね、ぜひ来ていただきたいということで申し上げました。そのとき県のほうは、企業誘致にインセンティブが何にもなかったものですから、ただいろんなことに協力しますというふうな話だったんですけども、さいたま市は既にインセンティブの制度は用意されておりましたので、こういったインセンティブもありますよということも申し上げました。

ただね、それはそれなんですけれども、一番大事なことというのは、企業誘致するのに一番大事なことというのは、例えば工場が移ってくると道路をどうしよう、排水をどうしよう、こういった問題が必ず起きてくるんです。それに対して全庁一丸となって素早く対応するという姿勢がですね、何より大事なんです。産業展開推進本部という本部をつくったのはまさにそこにねらいがあって、産業展開推進室というのが事務的にですね、そういったことを進めていますけれども、それじゃ水路をどうする、道路をどうする、それから電気をどう引っ張っていく、そういったときにぱっと対応できるのは推進本部と、全庁的なですね。そういったことでやらせていただいております、非常に対応が早いという評価はいただいております。

そういったいろんな流れの中でですね、今度カルソニックカンセイさんがいよいよオープンされるということで、大変感無量なものもありますし、逆に竣工式の一番びっくりしたのはその工期の早さです。1年半でしたね、たしかね。1年半で全部つくってしまうというですね、そのスピードにはびっくりしまして、その後請け負った建設会社からもちょっと話聞いてみたら、いや、大変なスピードですということをおっしゃってました。

れども、やはりそういう民間のよさというものもね、あるわけなんで、さっきのPFIじゃありませんけれども、そういうよさも吸収しながらですね、こうやって招致ができたということはですね、これからのさいたま市にとりましても非常にいい一つのきっかけだったかなというふうに思っております。

同時に、やはり北島孝社長からおっしゃっていただいたので一番うれしかったのはですね、質の高い従業員が確保できるだろうと、だからさいたま市に来るんだよということをおっしゃっていただきましてね、ああ、そうか、そうかと、じゃさいたま市のね、いわゆる学生、それから若い人の評価というのは高いんだなということがね、非常に私としてはうれしかったお話だったですね。

- 産経新聞 よろしいでしょうか。
- 市 長 はい、じゃどうもありがとうございました。
- 産経新聞 どうもありがとうございました。以上をもちまして、本日の記者からの質問を終了します。
- 進 行 それでは、これをもちまして定例記者会見を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

午後2時15分開会